



ヘルパーとして日々を振り返って



宮本 千恵子

屋島やすらぎのヘルパーとして働きはじめて、早いもので20年が過ぎました。

最初からご縁があったAさんのところには、今も入らせてもらっています。Aさんは、痰吸引が必要で、会話は文字盤を使ってします。当初、吸引や文字盤が私にできるかと不安でしたが、先輩ヘルパーさんが、

「大丈夫！できるようになるから！」



と、背中を押してくれたので、訪問看護師さん、先輩ヘルパーさんたち、Aさんのご主人さんに教わりながら、私にもできるようになりました。

今では、(あわただしく限られた時間の中ですが)文字盤を使っての会話は、お互いの楽しみとなっています。

文字盤を使わなくても、Aさんの顔の表情、目の動きなどで大体何を伝えたいのかわかるようになってきました。

20年あまりの間、私の家庭事情や健康面などで休ませてもらうことが何度かありましたが、その度、やすらぎのヘルパー仲間にも助けられ、Aさんやご家族のあたたかい言葉に励まされ、続けていくことが出来ました。

40代だった私も60代後半、体力も記憶力もおとろえてきて・・・いつまで続けられるかわかりませんが、一日でも長く共に歩いていけたらいいなあと願っています。

